

鍛光「盲目の音楽家」1934年

映画「豊島の風土を訪ねて・田西楽鳴町編」

ある東京

平成元・2年度制作 16ミリカラー・35分 【企画】東京都豊島区
【制作】中日映画社◆制作/江幡重実◆脚本・監督/日下部水焯◆助監督/大規直◆撮影/高坂広◆撮影助手/伊田豊、西城優◆原版編集 松下泰子
【出演】アンリ菅野(ジャズ歌手) 【解説】和田篤 【録音】井上秀司 【音楽】岡田恒紀 【協力】宇佐美承(元朝日新聞記者、著書「池袋モンパルナス」)

ある東京

豊島区が昭和58年度から製作中のシリーズの最終編。大塚・池袋を中心とする旧西巣鴨町地域の歴史と風土を特に、教育・文化の視角から画家達の絵画約30点や写真資料などを通じて紹介するとともに生きてきた人々の時代との格闘の姿を浮き彫りにする。

100年前にはわずか1,318人の人口だった池袋。その周辺には明治後半以降、20ヶ所をこえる牧場が生まれた。明治28年に誕生した巣鴨監獄はその後、池袋という街の発展に大きな影響を与えた。作家、野上弥生子ら数々の女性指導者を生み出した巖本善治の明治女学校、わが国最初の精神障害児の施設・滝乃川学園など様々な試みが行われたのも首都郊外であるこの地であった。

巣鴨監獄を描いた中川一政。その春陽会から世にでた三岸好太郎。靄光の絵『盲目の音楽家』はこの時代の画家と街の心の交差を象徴しているかのようだ。同じ池袋で画家たちとの交流を深めながらみずから街をスケッチした小熊秀雄。

1931年、2.26事件の日、靄光などと戦時中も『新人画会』を開いた井上長三郎は『屠殺場』を描く。その絵がこの映画の撮影を機に45年ぶりに日の目を見た。

「それにしてもまあ、よく飽きもしないでああ絵がかけるものです」中国で戦病死した靄光の未亡人、石村キエは昨日のごとくたんたと当時を回想する。

戦後、巣鴨監獄は巣鴨プリズンからサンシャインシティへと生まれかわる。この1世紀、激動の時代を夢と理想をもって生きた人々の軌跡は、街の姿に際立った個性と魅力を添えてきた。

『ここに理想の煉瓦を積み
ここに理想の堰を切り
ここに命のあぜをつくる
疲れて寝汗かくまでに
夢のなかでも耕さん』

(小熊秀雄、最後の言葉から)



井上長三郎氏と『屠殺場』(アトリエにて)



中川一政「草枯れし監獄の横」1920年



小熊秀雄「自画像」1938年

三岸好太郎

『檸檬持てる少女』1923年

構成(35分)

オープニング／アンリ管野

巣鴨村の時代／巣鴨村の成立、東福寺、牧場

若い教育者たち／明治女学校、野上弥生子、巖本善治、家庭学校、四面塔、大塚駅・池袋駅、滝乃川学園、石井亮一、帝国小学校、西山哲治村から町へ／東上鉄道、武蔵野鉄道、大塚界隈、立教大学

画家たちの登壇／巣鴨監獄、中川一政、春陽会、三岸好太郎

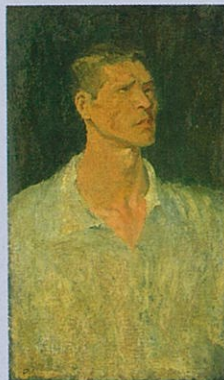
大正から昭和へ／関東大震災、三岸好太郎、児童の村小学校、野口援太郎

昭和の初期／昭和初期の大塚、池袋、村山知義、前田寛治、佐伯祐三、靄光

池袋モンパルナス／アトリエ村、田中佐一郎、春日部たすく、小熊秀雄、池袋美術クラブ、寺田政明、2・26事件、井上長三郎、戦時下の生活、新人画会、石村キエの回想

炎上／東京大空襲、戦災後の巣鴨風景、変わり果てた池袋駅瓦礫の中から／池袋ヤミ市、スタジオ・デ・ボザール、秋田雨雀、戦争犠牲美術家の追悼展と靄光

再生／巣鴨プリズン、サンシャインシティ、薪能、夕景



靄光「自画像(白い上衣の)」1944年

映画「豊島の風土を訪ねて」シリーズ

旧巣鴨町編『花とみどりの里』(昭和58年～59年度制作)

旧高田町編『おもかげの道』(昭和60年～61年度制作)

旧長崎町編『風薫る里』(昭和62年～63年度制作)

旧西巣鴨町編『ある東京』(平成元～2年度制作)

❑ 映画のビデオテープは、各出張所、図書館、社会教育会館などで貸し出しています。問合せは豊島区広報課 ☎3981-1111 内線2132へ。
❑ ビデオテープの他に、16ミリフィルム・映写機をお貸ししています。中央図書館事業係へお問合せください。(無料) ☎3983-7861